



## 7/8岩滝地区防災の日

左は令和2年の豪雨災害のあった日の朝7時、谷の崩落直前の様子です。この30分後にはカーブミラーも電柱も看板もガードレールもなくなってしまいました。皆様この経験をもとに、災害への備えをお願いします。

# 広報いわたき

●発行者●

岩滝まちづくり  
協議会

TEL 77-9877

FAX 77-9409

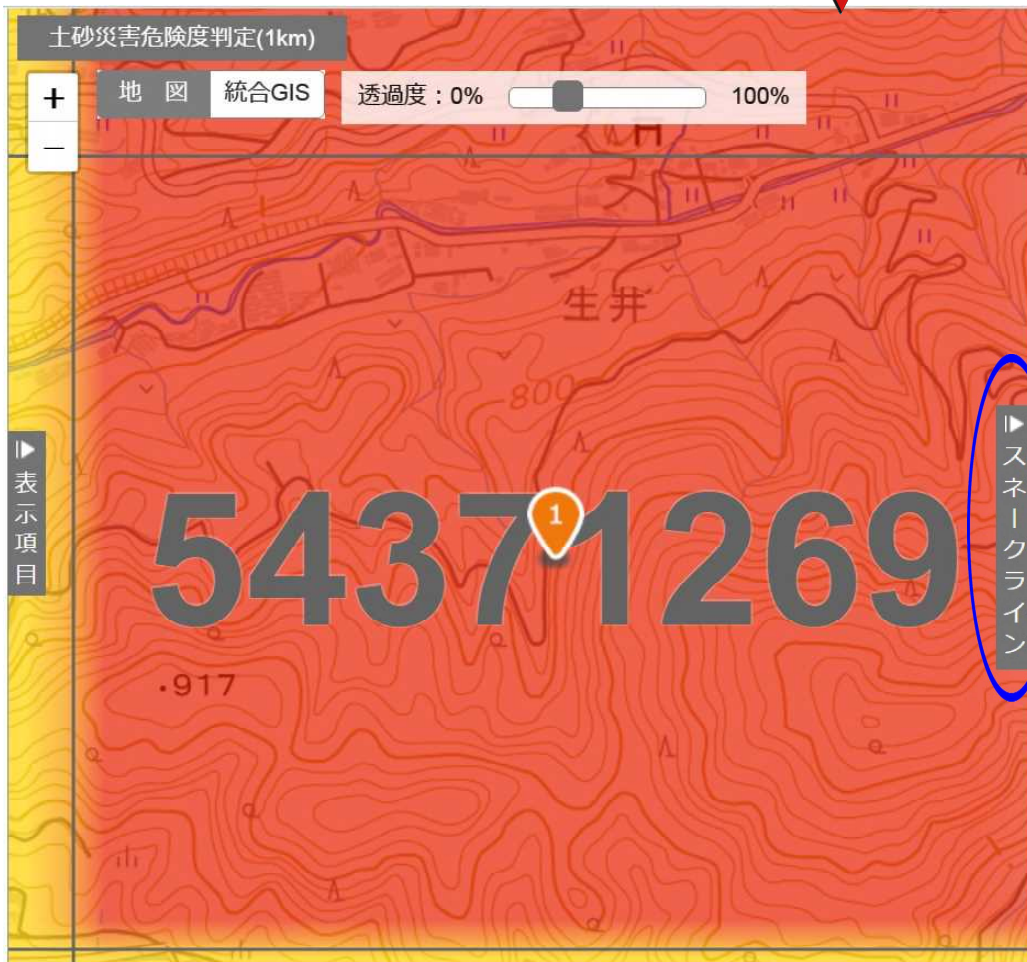
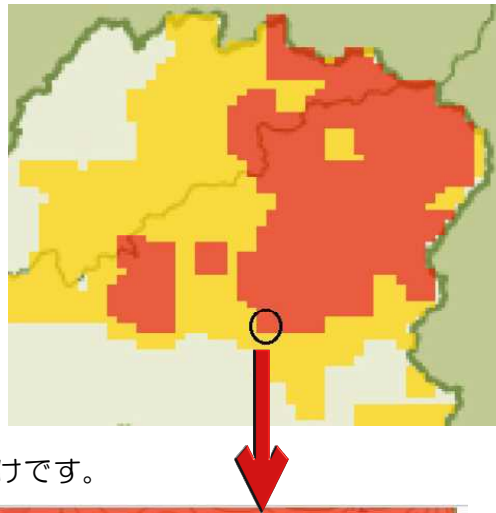
メール

iwataki@hidatayaama.ne.jp

さて、先日7月1日は16:00頃ものすごい集中豪雨で驚きましたが、高山市全域に豪雨による土砂災害警戒情報が出されました。

さらに16:40には、土砂災害の危険性が高まっているとして、市内の5624世帯、1万3073人に避難指示が発令されました。

降り続く大雨で地中に大量の水がたまり、これ以上地中に水を含んでおれない状態になると、土砂崩れを引き起こすことになるため、「土砂災害警戒情報」が発令されるわけです。



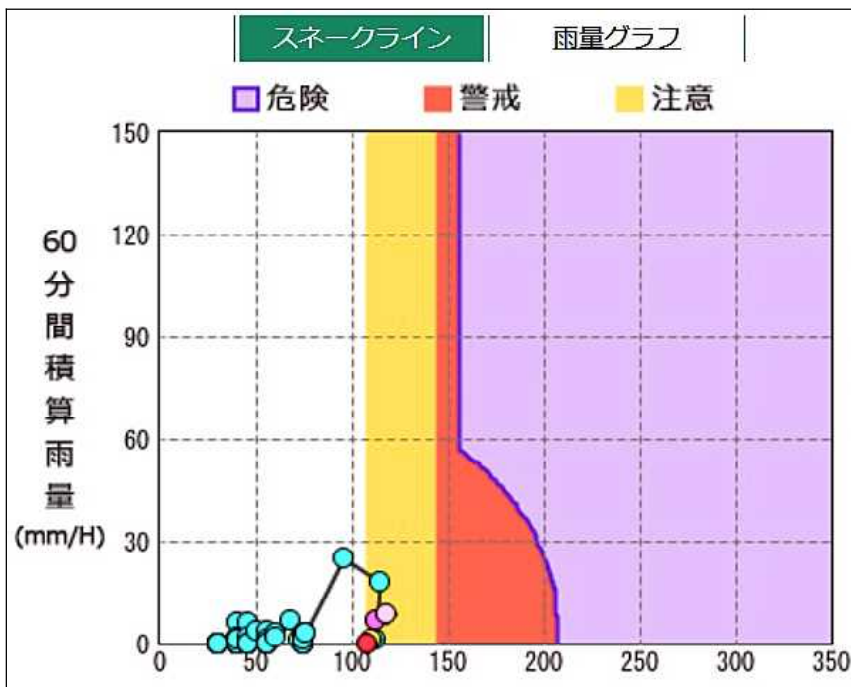
このとき、気象庁と県が共同で出している「ぎふ土砂災害警戒情報ポータル」をインターネットで開いてみたところ、上図のように飛騨北部の丹生川から上宝にかけて赤色になっていました。

そして、よく見ると、○印の部分が岩滝にかかっていて、拡大すると左図のように縦横1kmの枠が引いてあって、生井の神社付近の1平方kmが赤くなっていました。

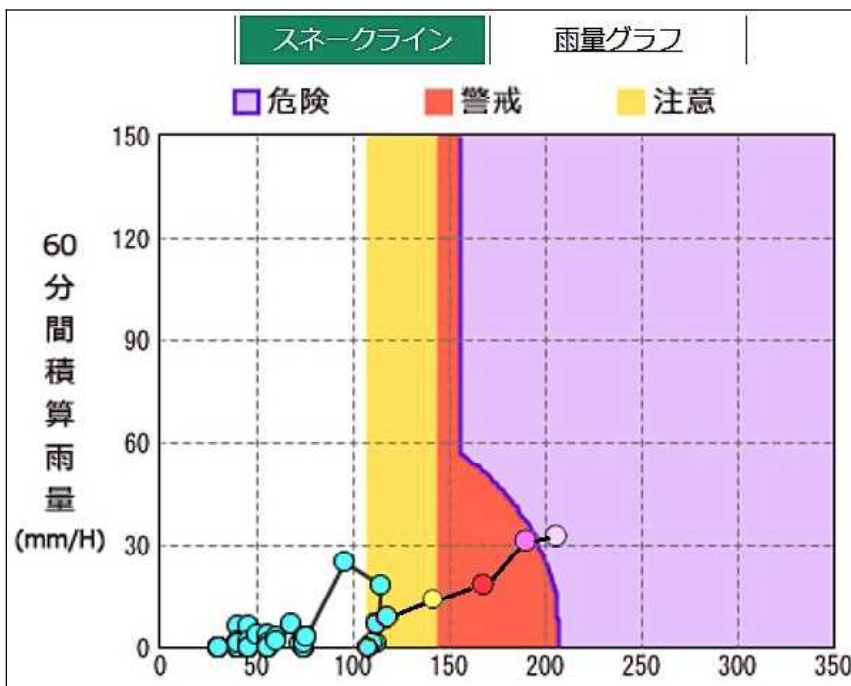
この図は、黄色

が注意、赤が警戒、紫が危険を示します。まだ紫になってはいませんが、このからの雨でどうなるかわかりません。降り続く雨で生井神社付近の危険性がどう推移してきているのか知りたいものです。

気象庁と県は、降り続く雨の量と、川へ流れ出る水の量から、地中にたまっている水の量を計算して、1時間ごとに危険度を判定しています。そして、地図上の1平方kmごとに「スネークライン」という折れ線グラフで表しています。(上図の右端をクリックすると見られる)



もし仮に、4時間後  
こんなふうになったら！



そこで、図中の右端にあるスネークラインをクリックすると、左図のような表があらわれました。  
左下の○印がつながっている折れ線は蛇のように右側へ伸びているのでスネークラインと言います。

これは1時間ごとの危険度判定を○印で示してあるもので、  
現在が●、これまでが●、  
これから1時間後の予想が●、  
2時間後の予想が●、3時間後の予想が●です。

グラフの縦軸は雨量で、これまでに雨量が多くなったり少なくなったりを繰り返しながら、次第に右の危険区域へ近づいてきて、現在は縦に黄色くなっている「注意」の範囲に入っていることを示しています。

さて、問題は今後このスネークラインがどう伸びていくか、そして1時間後2時間後がどんな予想になるかです。

もし仮に左図のようになった場合を考えてみます。

現在●は赤色の範囲の手前、1時間後の予想●は赤色の範囲内、2時間後の予想●は紫（危険）と表示されました。

2時間後の紫に入ってから避難していたのでは手遅れです。

今黄色のときに避難すれば、2時間の間に無事避難できます。

大雨と土砂災害が心配されるときは、このスネークラインがどう伸びていくかに注目して避難するタイミングを考えることが重要です。

岩滝まち協と連合町内会は、これまで防災会議で話し合いを重ねてきましたが、このスネークラインが紫に入る手前の「2時間の避難の余裕がある」うちに岩滝地域の皆様に避難の呼びかけをして、公民館や岩滝小へ避難していただこうと考えています。

高山市の発令する避難指示は、岩滝だけを見て判定してはなりません。高山市全体を見ているわけですので、ひょっとすると岩滝だけ紫色の範囲に入っているということもあるかもしれません。高山市の避難指示が出されていなくても、岩滝地区内でスネークラインが紫色の範囲に入りそうな場合は、岩滝まち協と連合町内会から避難指示を発令することがありますので、皆様ご理解ご協力をお願いします。

「避難したけど、結局何事もなく空振りだった」ということもあると思いますが命が大事です。

県と気象庁の情報は「[ぎふ土砂災害警戒情報ポータル](https://alert.sabo.pref.gifu.lg.jp/sp/)」で検索してご覧ください。

<https://alert.sabo.pref.gifu.lg.jp/sp/> でもご覧いただけます。